

有識者会議 会議録（議事要旨）

会議の名称	第1回かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	平成27年6月17日（水） 18時55分～21時13分
開催場所	千代田庁舎 本館2階 第1会議室
出席委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大塚 洋一郎 委員 ・加藤 哲己 委員 ・川島 宏一 委員 ・川村 成二 委員 ・櫻井 理恵 委員 ・佐々 松音 委員 ・瀧川 康恵 委員 ・戸田 廣 委員 ・中島 祥元 委員 ・西川 壮太郎 委員 ・蘆原 梓 委員 ・兵藤 昭彦 委員 ・藤崎 和則 委員 ・古橋 智樹 委員 ・古本 顕光 委員 ・真藤 実男 委員 ・元井 隆 委員 ・渡辺 一洋 委員 <p style="text-align: right;">（計18人）</p>
欠席委員	<ul style="list-style-type: none"> ・狩野 良和 委員 ・佐野 治 委員 <p style="text-align: right;">（計2人）</p>
事務局等	<ul style="list-style-type: none"> ・坪井 透（市長・かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部長） ・木村義雄（市長公室長） ・貝塚裕行（市長公室 地方創生担当） ・大久保 勉（市長公室 まちづくり担当） ・横田 茂（市長公室 政策経営課） ・神野 厚（市長公室 政策経営課） ・猪俣直宏（市長公室 政策経営課）
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 座長選出 5 議事 <ul style="list-style-type: none"> （1）かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議について （2）地方創生に向けた国・県の取り組みについて （3）かすみがうら市まち・ひと・しごと創生の取り組みについて （4）かすみがうら市の人口の状況について （5）意見討論（自由討論） 6 その他 7 閉会

1 開会

2 あいさつ

【坪井市長】

本日は大変お忙しい中、第一回のかすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議にご出席を賜りまして、まずもって御礼申し上げます。また、皆様方には多くの業務をかかえて居られる中、大変お忙しい方ばかりではありますが、委員を気持ちよくお引き受けいただきまして心から御礼申し上げたい。

さて、国におきましては昨年の11月に地方創生法が成立いたしまして、まち・ひと・しごと創生に向けた取組みがはじまり、12月に総合戦略の閣議が決定をしたところである。

これを受けまして都道府県および市町村は地方人口ビジョン、地方総合戦略の策定が求められていることから、私を本部長とする、まち・ひと・しごと創生戦略本部を設置して取り組んでいるところである。

地方総合戦略等の策定に向けましては人口減少する中、地方創生を全庁的に推進して将来にわたりまして、活力ある地域づくりを進めてまいりたいと考えているところである。施策のアイデアについては、職員に提案募集行ったところ、約200件のアイデアが寄せられている。

また、総合戦略の策定にあたっては、市民の方々のご意見を取り入れるために、現在提案募集を行っているところである。今後これらのアイデアを含み、戦略本部、専門部会で総合戦略に盛り込むための施策の検討を進めたいと考えている。

本日お集まりいただいた有識者会議の皆様方は、それぞれ様々な分野でご活躍されていることから、皆様のこれまでの経験・見識、そして専門的立場からご意見・ご助言をいただき、人口ビジョン・総合戦略を策定していきたいと考えておりますので、活発な議論を大いに期待するところである。忌たんのない意見等をいただきますことをお願いいたしまして会議の冒頭にあたる挨拶とさせていただきます。

3 委員紹介

【大塚委員 特定非営利活動法人農商工連携サポートセンター 代表理事】

食と農、消費者と生産者、都会と地方を結ぶという仕事をしている。具体的には地方のものを都会で売り、食べてもらい、それに関心を持った都会の方に地方に来てもらうようなことを行っている。

【加藤委員 オートリブ株式会社 財務本部執行役員】

会社の規模は、世界的に6万人の従業員がいて1兆円の売上がある。その内、かすみがうら市にお世話になっている事業所があり、かすみがうら市で約900名の方が働いている。

【川島委員 筑波大学システム情報系社会工学域 教授】

専門は公共経営で、様々な自治体や政府のデータから価値を生み出すことをやっている。4

月に大学に来て、その前は、元々は国土交通省で住宅・都市開発を行ったりあるいは北九州市役所で再開発を行ったり、あるいは世界銀行でアジア各国の自治体の経営支援を行ったり、佐賀県庁で情報化施策を行ったりしてきた。実は、私の母親の実家が出島村の馬場山というところであり、私のルーツに貢献させていただく機会をいただき、大変光栄に思う。

【川村委員 かすみがうら市議会 総務委員会常任委員長】

勤務は日立建機株式会社に勤めている。市議会議員としては 2 期目であるが、一生懸命やらせていただきたい。

【櫻井委員 櫻井ブルーベリー園 代表】

かすみがうら市で 1.4 ヘクタールのブルーベリーを栽培している。今回このような役をいただき、どの様にお役に立てるのか、今考えているところである。

【佐々委員 MS バリュースコンサルタント 代表】

かすみがうら市に約 40 数年住んでいる住民である。出身は日立建機で、今はバリューエンジニアリングという手法のコンサルタントをしている。かすみがうら市職員にも V E をお話をする機会があり、その時にかすみがうら市を活性化させるにはどうしたら良いかや 6 次産業を活性化させるにはどうしたら良いか、かすみがうら市の住民を健康にして病気に関わる費用を減らすにはどうしたら良いか、というようなアイデアを出して議論したが、最終的には誰がやるのか、という話になってしまい、今回の会議で少しずつ花開いてくるかなと期待している。

【瀧川委員 下稲吉小学校 PTA 副会長】

下稲吉小学校 PTA の副会長を 3 年ほどやらせていただいております、小学生と中学生と高校生の 3 人の子供をもつ母親である。

【戸田委員 霞ヶ浦北浦水産加工業協同組合 代表理事組合長】

霞ヶ浦北浦では現在、生産加工業者が約 60 社ほどある。平成 22 年の 3. 11 で風評被害、直接被害はなかったが、これをいかにして元に戻すかということで、業界一丸となって頑張っている。

【中島委員 一般財団法人ウィズスポ 代表理事】

主に全国の自治体と連携をしてスポーツイベントをして地域活性化をするということをやらせていただいている。多いのは自転車の事業で、かすみがうら市においては毎年秋 10 月にかすみがうらエンデューロという、霞ヶ浦の湖畔を利用した自転車の大会を開催させていただいている。参加者の数は年々増えてきており、今後はイベントだけではなく、エンデューロでこられた方がどうやって日常的にも、また次の機会にもかすみがうら市を訪れていただける仕組みをつくるかも考えて着手させて頂きたいと思っている。

【西川委員 日本貿易振興機構茨城貿易情報センター 所長】

JETRO は経済産業省所管の独立行政法人であり、日本企業の海外展開を支援する政府組織である。昨年 6 月に水戸に事務所を開設させていただき、私は初代所長ということで、こちらの方にやって来た。この 1 年弱で既に具体的な成果が出ており、常陸牛の輸出を仲介させていただき、メロンもマレーシアに出荷が始まった。これは、マレーシアの輸入業者をこちらにお連れ

して生産地をご案内し、上手く輸出が決まった。この有識者会議では、どうやって海外で稼ぐ仕組みを作るかなど、意見交換をさせていただければと思う。

【蘆原委員 株式会社ぐるなび 営業本部加盟店営業部門ぐるなび大学】

私どもの会社は飲食店の検索サイトを運営している会社で、全国に14万5000店舗のお客様とお取引をさせていただいている。飲食店でできる地域活性化というところで、地元のを飲食店で地産地消または地産他消といった部分でサポートさせていただければという形で支援を約3年前から力を入れさせていただいて、生産者の方とのマッチングをかけていくという所に力をいれている。このようなところで貢献させていただきたいと思う。

【兵藤委員 四万騎農園 代表】

私はこの近くの栗農園を経営している。収穫した栗とその加工品小売業を行っている。

【藤崎委員 茨城新聞社土浦・つくば支社 編集部長】

生まれ育ちはこの隣の石岡市で、高校時代はわかぐり運動公園の近くを自転車で土浦まで通っていた。今から30年前であるが、記者の第一歩は出島村が担当であった。色々な所を転々としたが、30年ぶりに戻ってきた。

【古橋委員 株式会社Mind-Neo 代表取締役】

私は当市内でサービス業を営んでいる。自称かすみがうら市内の赤組の代表として参加した。かすみがうら市内の法人で、優良企業ばかりおそろいとは思いますが、実は市内3分の2が赤組で私はその代表のつもりで来ている。このような会議で赤組の意見は、私は大事だと考えており、僭越ながら一言付け加えさせていただきにきた。

【古本委員 学校法人自治医科大学 調査役（兼）理事室長】

今自治医科大学に出向しているが、私は総務省の職員である。茨城県には平成16年度から8年間出向させていただき、その間、介護保険室長、政策監、病院局長など様々な仕事を歴任させていただいた。こういう貴重な場にお呼びいただき私自身、当事者意識を持って参画させて頂きたいと思う。

【真藤委員 かすみがうら市商工会 会長】

統計では、市内の商工業は1200社で、そのうち商工会に加盟しているのが850社あまりで、その会長をして7年目になる。現在、市からの委託でプレミアム券を発行しており、それを少しでも活用させて達成感につなげていければと思う。

【元井委員 株式会社JTB 関東 法人事業チームマネージャー】

私どもは旅行業界の会社である。主にお役にたてる場所は、いかにして他の地域からお客様を呼んで来られるか、そういった観点からお話させていただければと思う。

【渡辺委員 筑波銀行 上席執行役員 営業副本部長】

私は営業副本部長という役職であるが、この約3年半は震災復興・地域振興といった仕事を担当している。また、筑波総研という手前どものシンクタンクのコーポレートアドバイザーということで、自治体と企業を中心とした様々な事業・まちづくり・食と観光などの仕事をさせていただいている。我々の銀行が持っている様々なネットワークはフルに活用させていただき、

かすみがうら市のために少しでもお役にたてればと思う。

【事務局】

欠席の連絡を受けている方は、認定こども園狩野学園理事長の狩野良和様、土浦農業協同組合代表理事組合長の佐野治様で、お二人を含めて合計 20 名の有識者会議の委員となる。

4 座長選出

【事務局】

かすみがうら市まち・ひと・仕事創生有識者会議設置要綱第 5 条第 2 項の規定によりまして、本日の会議、座長につきましては委員の互選により定めることとなっている。どのような方法で選出するか皆様からご意見を頂戴したい。

【川村委員】

初めて会われる方も多くいるため、ここで急にこの方というのは決めづらいと思う。事務局のほうで提案していただければと思う。

【事務局】

それでは、座長には筑波大学システム情報系社会工学域教授川島宏一様を推薦する。

一堂承認

【事務局】

座長については、筑波大学システム情報系社会工学域教授川島宏一委員と決定する。それでは川島委員の方から、ご挨拶させていただければと思う。

【川島座長】

皆様、僭越ではあるがご指名に預かったため、全力を持って当たらせていただきたい。私、先程も申し上げたように母の実家が出島というところにあり、土浦で生まれ育ち、地域の振興の問題・最近の地方創生の中でできるだけ皆様と一緒に考えていければと思っている。私自身の力は微々たるものだが、ここにいらっしゃる多彩かつ豊かな方々の知恵・ネットワークの中で多くのアイデアと実現可能なプランが出てくるのではないかと思うので、是非自由・活発なご議論をお願いしたい。

5 議事・質疑

(1) かすみがうら市まち・ひと・しごと創生有識者会議について

意見無し

(2) 地方創生に向けた国・県の取り組みについて

(3) かすみがうら市まち・ひと・しごと創生の取り組みについて

【古橋委員】

市民にアイデアを募集しているが、かすみがうら市内では、地方創生に関して、どれくらいに関心があるのか知りたい。始まってからどれくらいの反応があるか。反応があった場合は現段階での分析をうかがいたい。

【事務局】

市の広報誌は月2回発行で、今月上旬のお知らせ版に掲載した。またあわせてHPにもだしている。HPではそのままアンケートフォームに回答できる形として投げているが、まだ反応は無い。6月20日発行の広報誌では1ページを使って大きく紹介するため、その後また報告させていただく。

【川島座長】

HPだけでは市民に浸透していかない。何か他にこんなことをすれば、市民に浸透していくのではないかという意見はあるか。

【古橋委員】

広報誌で出ているので高齢者の方には伝わっているとは思いますが、実際将来を担う子供たちにも教育の現場などでの意見を取り入れていただきたい。

【川島座長】

目標年が2060年であり、今の子供たちがまさに働いて子供を生み育てるような時期である。ぜひ、子供たちの意見もぜひ取り入れていただきたい。

【事務局】

市民のアイデア募集という点については、先程お話がありましたように行政だけではなく、市民にも周知をしながらこの総合戦略の策定に協力してもらおうという観点から市民にも層を広げていったということである。その中でご提案のあった子供たちについても、これまでは高齢者政策が重要視されてきたが、子育て支援というのも含めて人口対応ということは考えていかなければならないと思うため、内部調整させていただきたい。

【川島座長】

私がこのような広報をしていたときは、ポスターコンクールなどを行っていた。生徒・児童のみなさんが日常的な学習活動の中で意識を高めるような、あまり負荷のかからない取組みなどが出来ると思うので、考えていただきたい。

【西川委員】

作文コンクールを行うと、小中学生から自分が将来ここに住み続けるには、どうしたら良いかという意見が出てくると思う。

【藤崎委員】

小中学校で授業の中でどれだけ時事問題・地方創生についてやっているのか。コンクールの前にその前段階が無く、いきなりまちを良くしようと問いかけをしても子供たちは何を出して良いのか迷ってしまう。

【事務局】

どういう切り口で子供たちに教えていくのかが一番難しいと思うが、一般的に市民の気持ちを高めることの1つにコンクールが有効だと思う。これまでの事例では、子供たちの素直な気持ちを絵や作文によって表し文化祭等で発表するというをやっていた経過もあると思う。やり方によって子供や保護者の関心を高めるには非常に効果があると思う。

【藤崎委員】

それでしたら、大人向け・子供向けに地方創生とは何なのか、書く場合の基礎になる資料を世帯毎に配布を行えばさらにいっそう盛り上がるのではないかと。

【川島座長】

コンサルタントの方もいるので、地方創生というのとは何なのか、いろいろなイラスト等含めわかりやすくしていただけるよう、ご検討いただきたい。国や市でさまざまな政策・取組みがされているが、これに対して何か日頃の課題などはないか。

【古橋委員】

市内の法人登記のある方にも通知なり、アンケートをだしていただき、その意見も分析していただきたい。

【事務局】

今後、方法も含めて検討する。

【大塚委員】

議事の最後に自由意見・討論とあるが、これは人口の状況について説明を聞いた後が良いか、今発言しても良いか。

【川島座長】

できれば最後でディスカッションを深めたいと思う。今この場では、国の取り組み・市の取り組みへの意見・質問をしていただき、人口の説明を含めた全体の意見はまた最後をお願いしたい。

(4) かすみがうら市の人口の状況について

【大塚委員】

この7年間、地方のものを都会で売って食べてもらい、都市の方に食事会や農業体験などの体験を行ってきた。食+ちょっとした体験をして地域を好きになってもらう、そうするとさらにその地域の産品を買って食べる。そういうサイクルやフィードバックを得て推進してきた。

今回戦略をつくるにあたって、人の交流というのが非常に大事だと思っている。人の交流のベースになるのは“食”だと思う。かすみがうら市は果樹、野菜、その他の一次産業でおいしいものが沢山あると思うので、それをぜひ交流に生かしていただきたい。相手となる都会の人というのは、必ずしも東京とは限らず、近隣の都市・土浦市や、かすみがうら市に住んでいる他に通っている方々、特に女性に対してかすみがうら市の産品を食べてもらって、そして関心をもってもらってさらに交流を深める、ということが重要な要素だと思う。

様々な手段があると思うが、市の政策にあるスポーツイベントのときに地域産品の拡大等を

目的にサイクリングを活用しながら、新しいプログラムを行うのはとても良いと思う。スポーツイベントに特化した形で新しい商品を出していくのはとても重要と思う。それをきっかけにかすみがうら市に来てもらって、味わって体験してもらうのは非常に重要だと思う。

最後に、人口推計というのは必ずこうなるというものでは無いと思うため、新しい政策をたてることによって社会減を少しでも少なくする、あるいは社会増に転じることが大切である。島根県に邑南町という町があり、そこはわずか4年の間に、女性を大事にする政策を打出した。また、邑南町に行かないと食べられないものをPRしたことで、社会増を生み出したユニークな町である。

人口推計というのは、必ずしもこうなるというものではないので、人口は減るということを前提にしないで話をすすめていければと思う。

【櫻井委員】

現在、ブルーベリーをそのまま生の状態で販売することは、時期的に無理な面もあるので、ブルーベリーを使ったハンバーグやピザなどを考えている。

創生という言葉がとても難しいと思う。小さい子供たちにこのまま伝えることはしないと思うが、私達大人にも地方創生と聞いてもニュースを毎日見ても、ぱっと頭に浮かばないと思うため、この創生という言葉をもっとわかりやすい言葉にしていきたい。例えば「生まれ変わろうよ、かすみがうら市」というように、もっと簡単に飛び込んでくるような言葉を、大人にも子供にもわかりやすい言葉・キャッチフレーズを考えたいと思う。

【中島委員】

サイクリングというのは、かすみがうら市に適した大きな武器になると思う。全国的に自転車愛好家が増えてきている中で、これからも健康や環境といったことでますます増えてくると思うが、全国各地でいろいろな大会があるが、どこでもできるわけではない。自転車はスタジアムを走るのと違い、もともとある道路や景観を使うので、霞ヶ浦の湖畔はとても魅力があり、都内にも近いという地の利も含めて、すごく人を呼び込める素地がある。自転車に乗ればお腹が減るので食の交流にもつながるし、散策もする。全国的に自転車ブームだからやるのではなく、ほかには無い武器がここにある、ということを知ってほしい。

【蘆原委員】

知ってもらえるきっかけを作るのが大事である。私達が今やっている取り組みの中でも最終的には地域貢献にもっていきたいが、まずはかすみがうら市がどういう所なのかと身近な所で知ってもらえる機会が少ない。PR不足というわけではないが、その発信が上手く伝わっていないと思う。知っていただくきっかけとして、サイクリングというのはありだと思う。

【古橋委員】

地方創生の成功というのは、アンケートをより回収できるかどうかである。アンケートで抽出した市民意見に、有識者や本部長の付加価値を+α加えれば私は十分だと思う。

アンケートの中身をいかに回収できるような内容にするか、1ページもしくは両面1枚ぐらいで書きやすいアンケートを作るのが重要である。

景気が悪い中でも就職を高めることが大事であるため、法人・個人事業の方もアンケートの回収率をあげることが重要である。ありきたりなアンケートには、なってほしくないという思いがある。

また、総合計画策定に係るアンケートとの整合も図っていただきたい。

【木村市長公室長】

総合計画とある程度、整合性を図りたいと考えている。

【佐々委員】

よく話題になるが、かすみがうら市の認知度が低いと感じている。市民が市の良さを知らず、来訪者との認識の違いがある。市民が地域の良さを知ること、PR することが重要であり、広報を活用してはいかがか。広報誌を活用するには、より読みたくなる様に紙面構成等の工夫を行うことが重要ではないか。

事業については、案は出るが誰がやるのかという所がいつも問題になり、地方創生においてもここをしっかりと考えることが重要である。

【瀧川委員】

私は大阪で育ち、かすみがうら市に来て 15 年ほどになるが、かすみがうら市に来られて、子育てが出来て、良かったといつも感じている。しかし、市外者にかすみがうら市がどのような所か、まだ説明はできないが、子育てするにはとても良いところだと思っている。

女性の方の口コミのネットワークは凄いため、このような点も活用して市民が PR していくことが重要であると思う。今回の会議での内容も女性のネットワークで広げていけたら良いと思う。

【戸田委員】

地場産業を代々行っているが、後継者不足と収入を上げることが問題となっている。今はレンコン作りと兼業している方が多くなっている。昔は魚が少なかったが、現在は増えている。ワカサギや白魚で 500 トンくらい獲っているが、実際は 2,000 トン程度生息していると思われる。一定の収入を確保できれば就業する方も増加すると考えるため、収入を上げられるようになることが課題である。

【真藤委員】

コンビニは増加しているが、地場産業は減少している状況となっている。今後発行予定であるプレミアム券をうまくまわして、活性化につながると良いと考える。商工会としても一致団結して、盛り上げていきたいと思う。

【古本委員】

県で政策を行っていた際は、セブンイレブンと連携して事業を行い、メロンやローズポークを加工してなにかしようという意見となっていたが、県との意見の相違があった。

当時千代田カントリー倶楽部では、メロンや米など全国の良いものを高い値段で販売していたが、なぜ茨城県の産品を販売しないのかと思っていた。茨城県産の産品を高い値段で販売し、利益を折半するなど、目の前にあるものに工夫を施すことが重要であると考えた。

この会議は、1700 の市町村で同時期に行われていることから、結果として自己満足に陥ってしまうことは避けるべきであると考えます。これを機に、行政などが仕事の仕方を変えていく必要がある。みんなで目的意識を持ちながら、共有し、話し合い、意見をくみ取っていくことが非常に重要である。

【川村委員】

今回の地方創生は資料 6 にもあるように、KPI（重要業績評価指標）で PDCA サイクルを確立し、評価の結果が悪ければ予算をつかえないため、しっかりと目標をたてて、実行していくことになる。

人口予測で問題になるのは、生産人口が大幅に減少することである。かすみがうら市であれば、自営業が多いとすれば、後継者がいなくなってしまうため、人口を増やさなくてはかすみがうら市の将来がなくなってしまう。従って、人口の目標をたてなければならない。また、日立建機には独身寮があるが、結婚すると市外へ出ていってしまうため、そういう人たちをいかに定着させるかで人口は大きく変化する。従って、そのような取り組みを行う必要があると考えます。

【加藤委員】

かすみがうら市とのご縁は、15 年ほど前に業績が悪かった日本の会社を買収したことがきっかけであり、市の雇用を増やそうと考えたことはない。しかし、より収益が出るように、より良い品質のものをつくらうとした結果として、市内で 900 名の方が働いており、雇用増加につながっている。

【兵藤委員】

小売業を行っており、遠方の方には昼食場所や観光場所を聞かれることが多い。市外の方にお金を落としてもらうなら、このような観点がヒントの入り口になる。

人口減少に関しては、かすみがうら市内では、下稲吉に一極集中であるのではないかと思います。なぜ下稲吉に住むのかを、把握すれば良いのではないかと。また、アンケートの回収率を上げて、市民意見を把握することが一番の近道であると感じる。なぜ、かすみがうら市に住まわれているのか、他に魅力的な市はあるか、なぜ出て行きたいのかなどを聞いてはいかがか。

【元井委員】

つくば市に現在住んでおり、豊かな自然、自慢のできる産品、観光資源が揃っている。一番のかすみがうら市のセールスマンは住民であると思うため、ここに住んでいる住民が発信していくことが重要であり、また、市に誇りを持てることが定住化につながる。

【渡辺委員】

茨城県の財政指数は他県と比較すると、だいぶ良い水準であると言える。様々な方にお会いし、産品を食べてきたが、恵まれている環境であると感じている。海外にも輸出でき、かすみがうら市はやり易いと思う。あとは、住民の方々がどう考え、欲しているかということをしっかり把握することが重要である。

【川島座長】

皆さんが当事者として何ができるのかを考えることは重要であるため、組織としてあるいは個人として何ができるのかということ、次回までに考えてきていただき、次回の会合の場で共有したい。

(6) その他

次回のスケジュールについては、8月21日（金）18時からとする。

(7) 閉会